

# 目次

口絵

序

凡例

目次・細目次

第一編 敗戦から復興へ…………… 1

第一章 占領期の政治と行政…………… 3

第一節 敗戦と占領統治の受入れ…………… 3

一 敗戦とその受容…………… 3

二 占領の受入れ…………… 19

第二節 占領政策の展開と地方制度…………… 24

一 占領政策の展開と県に対応…………… 24

二 占領期のメディア政策…………… 33

三	特別市制問題	36
第三節	戦後処理と占領政策の転換	41
一	戦後処理問題	41
二	占領政策の転換と国際情勢	43
第四節	県行政組織の刷新	61
一	行政組織の改編	61
二	行政組織の整備	64
三	行政機構の改革	69
第五節	民主化と選挙	70
一	選挙制度の確立・啓発	70
二	政党県組織の確立	71
三	桑原知事の当選	75
第六節	戦後復興と県財政	77
一	戦後の県財政の改革	77
二	特需景気と名古屋港管理	85

第二章 戦争被害の実態と経済復興……………	87
第一節 工業における戦争被害の状況……………	87
一 工場被害……………	87
二 その他の被害……………	96
第二節 農地改革……………	99
第三節 産業復興の始まり……………	116
第四節 金融業の再編……………	130
第三章 地域と暮らしの戦禍からの再生……………	145
第一節 震災復興と地域社会の再編……………	145
第二節 県民生活の再生……………	164
一 生活困難への対応……………	164
二 民間福祉の基盤形成……………	170
第三節 教育改革と文化再生……………	178
一 教育改革……………	178

二	文芸活動の再開……………	182
三	スポーツの復活と愛知国体の開催……………	188
四	民間放送の発足……………	192
第四節	社会運動の発展と規制……………	194
一	占領下の労働運動……………	194
二	平和運動の成立……………	200
三	大衆運動組織の成立と活動……………	202
四	生徒・学生・教員の運動……………	206
五	在日朝鮮人問題と運動……………	210
第二編	成長への胎動……………	215
第一章	地方制度改革と県土の基盤整備……………	217
第一節	桑原県政の確立……………	217
一	講和条約成立後の県政……………	217
二	地方制度改革と県……………	220

三	名古屋特別都市計画	223
四	自治体警察	224
五	県と市町村の関係	226
第二節	市町村合併の進展	229
一	合併に関する取決め	229
二	尾張地方	238
三	三河地方	244
第三節	用水建設と県総合開発計画	258
一	愛知用水の建設	258
二	豊川用水の建設	270
三	県総合開発計画の策定	275
第四節	政党県組織の再編と選挙	285
一	桑原県政の定着	285
二	政党県組織の葛藤と分裂	288

第五節	県財政の展開	296
一	第二次シャウプ勧告と歳入	296
二	災害復旧費の膨張と高度成長への助走	302
第二章	高度成長への助走	307
第一節	農業改良普及事業	307
第二節	繊維産業と陶磁器産業の状況	319
一	繊維産業	319
二	陶磁器産業	324
第三節	機械工業の再出発	327
第四節	公益事業の新段階	343
一	エネルギー産業	343
二	鉄道事業	347
第五節	産業金融の展開	351
第六節	名古屋港と臨海工業地帯の発展	361

第三章 県民生活の構造転換……………	373
第一節 広域的な情報基盤の整備……………	373
第二節 生活の改善……………	380
一 生活習慣の改善……………	380
二 世帯更生運動の推進と保育・福祉施設の整備……………	390
三 社会環境浄化による非行防止……………	396
第三節 教育と文化の新展開……………	398
一 産業教育の再編……………	398
二 文芸活動の進展……………	402
三 文化活動の進展……………	405
四 スポーツの振興と普及……………	412
第四節 社会運動の定着……………	418
一 平和運動の発展……………	418
二 大衆運動の多様化……………	424

三	教育統制と抵抗……………	427
四	在日韓国・朝鮮人との交流活動……………	430
第四章	伊勢湾台風災害と社会整備……………	435
第一節	伊勢湾台風などの被害……………	435
第二節	災害の教訓と防災組織の新構築……………	446
一	被害の特徴……………	446
二	被災者と救助・救援活動……………	449
三	被害拡大の要因……………	454
四	復旧・復興の取組……………	458
五	国の総合的災害対策のモデルとされた本県の対応……………	465
第二編	高度成長……………	469
第一章	県による地方計画の策定……………	471
第一節	桑原県政の展開……………	471



一	県行政と桑原知事	471
二	高度成長期の名古屋市	479
第二節	地方計画の策定と展開	485
第三節	市町村合併の展開	498
一	合併に関する取決め	498
二	三県合併	501
三	尾張地方	502
四	三河地方	512
第四節	保守対立下の選挙と政党	518
一	公明選挙運動の展開	518
二	桑原県政の安定化	520
三	革新系統一知事候補の模索	521
第五節	高度成長期の県財政	526
一	財政規模拡大と潤沢な県税収入	526
二	特別会計等での成長路線の継続	536

第二章 各種産業の発展	537
第一節 製鉄業の発展	537
第二節 機械工業の発展	555
第三節 繊維産業と陶磁器産業の発展	572
一 繊維産業	572
二 陶磁器産業	587
第四節 流通業の再編	589
第五節 公益事業の拡大	600
一 電力事業	600
二 ガス事業	602
三 鉄道関係	607
第六節 農養生産の選択的拡大	609
第七節 金融業の拡大	623
第三章 都市化の進行	633

第一節	都市圏の形成……………	633
第二節	都市的生活と福祉の展開……………	654
一	都市的生活の浸透と女性の活躍……………	654
二	働く母親らによる保育所の開設と運営……………	662
三	障害者福祉の進展と老人福祉への着目……………	670
第三節	教育と文化の大衆化……………	677
一	教育大衆化への対応……………	677
二	文芸活動の継承……………	681
三	スポーツの発展と活性化……………	685
四	文化活動の活性化……………	692
第四節	社会運動の高揚と進展……………	698
一	安保条約改定反対闘争……………	698
二	安保闘争後の平和運動……………	706
三	生命と生活を守る運動……………	709
四	憲法・思想・教育運動……………	712

五	在日韓国・朝鮮人との連帯運動……………	716
第四編	成長から成熟へ……………	719
第一章	オイルショックと県政の転換……………	721
第一節	新しい県政の模索……………	721
一	名古屋高速道路の計画変更……………	721
二	県政の展開……………	723
三	オリンピック招致申請と中部国際空港の推進……………	728
第二節	安定成長期における地方計画……………	731
第三節	桑原知事から仲谷・鈴木知事へ……………	743
一	仲谷県政への継承……………	743
二	革新共闘の崩壊……………	743
三	鈴木県政の誕生……………	745
第四節	安定成長期の県財政……………	750

第二章	オイルショックから安定成長へ……………	761
第一節	オイルショックと「省エネルギー」……………	761
一	「省エネルギー」対策……………	761
二	各種産業分野の対策……………	771
第二節	工業における安定成長……………	778
第三節	新しい流通業の形態……………	787
第三章	新たな県民生活像の模索……………	809
第一節	コミュニティ形成への指向……………	809
第二節	支えあう暮らしの模索……………	817
第三節	教育の新たな試みと文化の展開……………	827
一	高校入試改革……………	827
二	文芸活動の定着……………	831
三	スポーツ分野における国際舞台での活躍……………	833

第四節	新しい社会運動の展開	836
一	戦災記録・補償運動	836
二	人権擁護運動	838
三	環境保全運動	841
第五節	調和ある県民社会への展望	846
一	産業首都構想と国際化への志向	846
二	生活の豊かさと地域生活の充実という発展目標	850
解説		855
あとがき		
資料提供者及び協力者		
愛知県史編さん関係者名簿		

# 細目次

## 第一編 敗戦から復興へ

### 第一章 占領期の政治と行政

#### 第一節 敗戦と占領統治の受入れ

##### 一 敗戦とその受容

1	敗戦直後の流言蜚語発生状況の報告 一九四五年(昭和二十)八月十八日……………	3
2	当面の民心指導についての警察署長通牒 一九四五年(昭和二十)八月二十六日……………	6
3	軍用品の分配について―杉浦明平の日記― 一九四五年(昭和二十)八月二十七日……………	7
4	占領軍接待班女子のための衣裳募集 一九四五年(昭和二十)九月二十四日……………	8
5	放置された供出金属 一九四五年(昭和二十)十一月三日……………	9
6	名古屋港における塩田築造計画 一九四六年(昭和二十)一月二十三日……………	10
7	北海道に渡った戦災帰農者の様子 一九四六年(昭和二十)八月二十八日……………	12
8	農村における戦争被害調査 一九四六年(昭和二十)十月……………	13
9	引揚民懇談会の開催 一九四六年(昭和二十)八月一日……………	15
10	名古屋引揚援護局検疫所の患者一覧表 一九四七年(昭和二十)一月……………	16
11	二 占領の受入れ 名古屋港進駐のための占領軍よりの整備要求 一九四五年(昭和二十)十月二日……………	19

#### 12 占領軍の名古屋港上陸に関するメモ

一九四五年(昭和二十)十月二十五日…………… 20

#### 13 賠償物資のリストの作成

一九四六年(昭和二十)十月二十五日…………… 21

#### 14 賠償物資の名古屋港からの積出しの報告

一九四八年(昭和二十三)五月十日…………… 22

### 第二節 占領政策の展開と地方制度

#### 一 占領政策の展開と県の対応

#### 15 戦没者の追悼に国旗を掲げた事例についての協議

一九四六年(昭和二十)八月六日…………… 24

#### 16 新憲法の制定……………

(1) 新憲法公布に趣旨の徹底の依頼  
一九四六年(昭和二十)九月二十五日…………… 25

(2) 新憲法公布にあたっての知事諭告  
一九四六年(昭和二十)十一月三日…………… 25

(3) 新憲法施行記念行事についての通知  
一九四七年(昭和二十)四月二十九日…………… 26

#### 17 教育勅語等の取扱いについての通牒の伝達

一九四六年(昭和二十)十月二十二日…………… 27

#### 18 政治団体および陸海軍将校の調査

一九四七年(昭和二十)二月十二日…………… 28

#### 19 学校における宮城遙拝中止の通牒の伝達

一九四七年(昭和二十)六月二十四日…………… 30

#### 20 公職資格審査調査表

一九四九年(昭和二十四)四月四日…………… 31

#### 21 二 占領期のメディア政策

可視化されない占領政策…………… 33

(1) CCDによる検閲―1 軍国主義…………… 33

一九四六年(昭和二十)十二月十八日…………… 33

	(2)	CCDによる検閲―2	空襲の記憶	33
		一九四七年(昭和二十二)	一月十日	
	(3)	CCDによる検閲―3	検閲の恣意性	34
		一九四七年(昭和二十二)	十二月四日	
22		私信検閲によるモニタリング		35
		一九四八年(昭和二十三)	四月九日	
	三	特別市制問題		
23		特別市制をめぐる名古屋市の主張		36
		一九四六年(昭和二十一)	八月一日	
24		特別市制をめぐる県の対応		39
		一九四七年(昭和二十二)	七月十日	
	第三節	戦後処理と占領政策の転換		
	一	戦後処理問題		
25		未帰還軍人・軍属の調査		41
		一九四七年(昭和二十二)	九月六日	
26		愛知神社大祭での名古屋市長挨拶		41
		一九五一年(昭和二十六)	十月二十八日	
27		名古屋市による遺族実態調査		43
		一九五二年(昭和二十七)	二月十日	
	二	占領政策の転換と国際情勢		
28		公安条例をめぐる県議会での討議		43
		一九四九年(昭和二十四)	七月一日	
29		国連軍等に対する県議会の感謝決議		49
		一九五〇年(昭和二十五)	八月三十日	
30		「平和条約」発効・憲法施行五周年記念行事の実施		49
		一九五二年(昭和二十七)	四月十九日	
31		兵器生産再開の胎動		51
		一九五二年(昭和二十七)	四月十九日	
32		戦争による特需とその危惧		54
		一九五二年(昭和二十七)	五月二十二日	
		小牧飛行場拡張計画に対する小牧町よりの嘆願書		55
		一九五二年(昭和二十七)	六月九日	
		小牧飛行場の拡張計画		57
		一九五二年(昭和二十七)	七月十五日	
		在日米軍による大府飛行場使用要求		59
		一九五二年(昭和二十七)	七月十八日	
	第四節	県行政組織の刷新		
	一	行政組織の改編		
36		軍事課から援護課への改組		61
		一九四五年(昭和二十)	九月四日	
37		副知事定数を二人とする条例改正		61
		一九四七年(昭和二十二)	六月七日	
38		労政事務所設置規則		62
		一九四八年(昭和二十三)	十二月二十八日	
39		定期監査における秘書課・地方課についての報告		62
		一九四九年(昭和二十四)	五月二十一日	
40		弘報室の事務についての分掌規程		63
		一九四九年(昭和二十四)	五月二十六日	
	二	行政組織の整備		
41		愛知県職員定数条例		64
		一九四九年(昭和二十四)	八月三十一日	
42		知事公室の設置と各課の事務分掌		65
		一九五一年(昭和二十六)	八月二十日	
43		新設される民生課の事務分掌		66
		一九五一年(昭和二十六)	八月三十日	
44		県税事務所設置条例の改正		67
		一九五二年(昭和二十七)	四月一日	
45		愛知県商工経済研究所設置規則		68
		一九五二年(昭和二十七)	四月二十二日	



	三 行政機構の改革	
	県の行政機構改革案	46
	一九五二年(昭和二十七年)十二月二十七日……………	69
	<b>第五節 民主化と選挙</b>	
	一 選挙制度の確立・啓発	
	選挙啓発運動実施要領	47
	一九四八年(昭和二十三年)……………	70
	二 政党県組織の確立	
	下半年県連組織活動計画	48
	一九四五年(昭和二十)……………	71
	県内の保守政党をめぐる状況―加藤鏖五郎日記―	49
	一九五一年(昭和二十六年)八月―九月……………	73
	保守系政治家の追放解除をめぐる動向	50
	一九五一年(昭和二十六年)八月二十六日……………	74
	三 桑原知事の当選	
	桑原幹根の知事選挙出馬	51
	一九五一年(昭和二十六年)五月一日……………	75
	知事選挙決戦投票の情勢分析	52
	一九五一年(昭和二十六年)五月十日……………	76
	<b>第六節 戦後復興と県財政</b>	
	一 戦後の県財政の改革	
	一般会計歳入歳出決算の推移	53
	一九五二年(昭和二十七年)十一月二十七日……………	77
	県の独自財源が貧弱な歳入決算	54
	一九四六年(昭和二十一年)……………	81
	昭和二十五年年度予算編成方針	55
	一九五〇年(昭和二十五年)二月二十八日……………	82
	シャープ税制改革後の歳入決算	56
	一九五〇年(昭和二十五年)……………	84
	二 特需景気と名古屋港管理	
	特需景気を反映した歳入決算	57
	一九五一年(昭和二十六年)……………	85
	名古屋港の管理方式についての県議会での報告	58
	一九五一年(昭和二十六年)三月二十八日……………	85
	<b>第二章 戦争被害の実態と経済復興</b>	
	<b>第一節 工業における戦争被害の状況</b>	
	一 工場被害	
	空襲による名古屋の工場被害状況	59
	一九六四年(昭和三十九)三月……………	87
	二 その他の被害	
	名古屋港内の沈船についての調査書	60
	一九四五年(昭和二十)……………	96
	電力不足の状況	61
	一九四七年(昭和二十二年)……………	97
	<b>第二節 農地改革</b>	
	農地改革の実績	62
	一九五四年(昭和二十九)八月……………	99
	<b>第三節 産業復興の始まり</b>	
	三菱電機株式会社名古屋製作所の生産復興運動	63
	一九四七年(昭和二十二)五月十五日……………	116
	興和紡績株式会社の復興の本格化	64
	一九四九年(昭和二十四)……………	119
	一宮市域の毛織物業の復興	65
	一九五〇年(昭和二十五年)七月五日……………	126
	紡織機メーカーの受注増加	66
	一九五〇年(昭和二十五年)七月二十八日……………	127
	陶磁器産業の復興	67
	一九五〇年(昭和二十五年)九月十五日……………	128

68 スクーター生産の本格化  
一九五二年(昭和二十七年) 四月十七日……………129

#### 第四節 金融業の再編

69 日本銀行名古屋支店の金融経済調査報告……………130

(1) 融資規制強化の反響  
一九四七年(昭和二十二)……………130

(2) 証券民主化の開始と株式市場  
一九四七年(昭和二十二)……………132

(3) 安定化への模索と金詰りの状況  
一九四八年(昭和二十三) 九月一日……………133

(4) 単一為替レートの設定による影響  
一九四九年(昭和二十四)……………139

(5) 復興金融金庫の融資停止をめぐる諸問題  
一九四九年(昭和二十四)……………142

### 第三章 地域と暮らしの戦禍からの再生

#### 第一節 戦災復興と地域社会の再編

70 終戦後の疎開者と受入先との摩擦に関する報告  
一九四五年(昭和二十) 十月一日……………145

71 愛知県住宅建設本部の設置規程  
一九四五年(昭和二十) 十月六日……………149

72 木材配給統制規則の改正  
一九四五年(昭和二十) 十月二十五日……………150

73 応急簡易住宅建設の奨励  
一九四五年(昭和二十) 十一月五日……………151

74 豊橋市高師寮の入居者募集  
一九四五年(昭和二十) 十二月三日……………152

75 占領下の交通事故対策……………153

(1) 占領軍との交通事故の防止  
一九四五年(昭和二十) 十一月五日……………153

(2) 生徒児童への交通道徳の徹底  
一九四七年(昭和二十二) 四月二十四日……………154

76 占領下の衛生対策……………155

(1) 都市清掃と防疫強化対策の依頼  
一九四六年(昭和二十) 六月一日……………155

(2) 衛生道徳実践強運運動  
一九四八年(昭和二十三) 十月三十日……………158

77 町内会と神社経営の分離  
一九四六年(昭和二十) 十二月六日……………161

78 町内会等の寄付金募集に対する占領軍の警告  
一九五〇年(昭和二十五) 九月一日……………162

#### 第二節 県民生活の再生

##### 一 生活困難への対応

79 育児用乳製品の配給書類  
一九四七年(昭和二十二) 十月三日……………164

80 「浮浪児」根絶対策  
一九四八年(昭和二十三) 十二月十四日……………164

81 主食配給の概況  
一九五一年(昭和二十六) 三月三十一日……………167

##### 二 民間福祉の基盤形成

82 方面委員の廃止と民生委員の委嘱  
一九四六年(昭和二十) 十一月十二日……………170

83 共同募金の結成  
一九四七年(昭和二十二) 八月十七日……………172

84 共同募金についての半田市長の言葉  
一九四八年(昭和二十三) 一月二十五日……………172

85 児童委員の役割が加わった民生委員  
一九四八年(昭和二十三) 三月六日……………173

86 愛知県社会福祉協議会の半年のあゆみ  
一九五一年(昭和二十六) 八月二十五日……………175

87	新設された社会福祉主事と民生委員の役割分担 一九五一年(昭和二十六)八月二十五日……………	176
<b>第三節 教育改革と文化再生</b>		
一 教育改革		
88	新制中学校発足期の学校経営案 一九四七年(昭和二十二)……………	178
89	新制高校における総合制の実施状況 一九四九年(昭和二十四)……………	181
二 文芸活動の再開		
90	『新樹』創刊号 一九四六年(昭和二十一)三月十五日……………	182
(1)	目次……………	182
(2)	作品執筆上の注意……………	183
(3)	編輯後記……………	184
91	『新日本詩人懇話会会報』一号 一九四七年(昭和二十二)五月十三日……………	184
92	『作家』第一号 一九四八年(昭和二十三)一月一日……………	185
(1)	目次……………	185
(2)	世話人後記……………	186
93	戦後第一回芥川賞受賞 小谷剛 一九四九年(昭和二十四)六月二十八日……………	187
94	『北斗』創刊号 一九四九年(昭和二十四)九月一日……………	187
(1)	目次……………	187
(2)	後記……………	188
95	三 スポーツの復活と愛知国体の開催 第五回国民体育大会実施要綱 一九五一年(昭和二十六)三月三十一日……………	188

96	愛知国体終了後の講評 一九五一年(昭和二十六)三月三十一日……………	190
97	和合ゴルフ場の払下げ申請書 一九五二年(昭和二十七)四月……………	191
四 民間放送の発足		
98	中部日本放送株式会社の設立 一九五〇年(昭和二十五)一月……………	192
<b>第四節 社会運動の発展と規制</b>		
一 占領下の労働運動		
99	決議文(愛知県労働者大会の電力民主化要求) 一九四六年(昭和二十一)九月二十一日……………	194
100	敗戦直後の労働組合結成状況 一九四八年(昭和二十三)五月二十八日……………	195
101	声明(労働運動における分裂行動への反対) 一九四八年(昭和二十三)十一月一日……………	197
102	新年を迎えるに際し県下労働組合代表者に告ぐ 一九四八年(昭和二十三)十二月……………	198
103	要請書(レッドパージ反対闘争への支援) 一九五〇年(昭和二十五)十月三十日……………	199
二 平和運動の成立		
104	全面講和促進運動その後の発展 一九五一年(昭和二十六)三月十五日……………	200
105	講和問題について『皆さまに訴える』 一九五一年(昭和二十六)八月三十日……………	201
三 大衆運動組織の成立と活動		
106	経過報告 愛知県民主婦人大会 一九四七年(昭和二十二)四月三日……………	202
107	趣意書(全名古屋生活協同組合協議会の結成) 一九四八年(昭和二十三)七月二十八日……………	203

108	労農運動救援会愛知支部の結成 一九四八年(昭和二十三)	十月十八日	204
109	招請状(生活権擁護人民大会準備会) 一九四九年(昭和二十四)	三月十三日	204
110	占領軍の命により当分の間(デモ・集会の禁止) 一九五〇年(昭和二十五)	六月十七日	205
111	中小商工業者運動の高揚 一九五〇年(昭和二十五)	七月一日	205
112	四 生徒・学生・教員の運動 決議(愛知県教育労働組合による要請) 一九四六年(昭和二十)	九月二十一日	206
113	尾張中学の学園民主化運動 一九四七年(昭和二十二)	二月四日	207
114	県教育委員会による教員レッドパージ 一九四九年(昭和二十四)	十月二十九日	208
115	半田市教育委員会による教員レッドパージと反対運動 一九四九年(昭和二十四)	十一月三日	208
116	共闘メッセージ(イールズ声明反対) 一九五〇年(昭和二十五)	五月二十九日	208
117	名古屋大学生の占領目的阻害行為処罰令違反公判 一九五一年(昭和二十六)	十月五日	210
118	五 在日朝鮮人問題と運動 朝鮮帰国希望者への対応 一九四五年(昭和二十)	十二月十日	210
119	在日本朝鮮人連盟の民主政府促進人民大会開催 一九四六年(昭和二十)	六月十一日	211
120	県内における朝鮮人の送還人数 一九四六年(昭和二十)	十月三十日	211
121	朝鮮人学校問題についての覚書 一九四八年(昭和二十三)	六月九日	212

122	全人民に訴う!(解散命令に対する抗議) 一九四九年(昭和二十四)	九月十日	212
123	朝鮮人学校の閉鎖 一九四九年(昭和二十四)	十一月八日	213
124	朝鮮人学校の閉鎖に対する抗議 一九四九年(昭和二十四)	十一月二十二日	213
125	朝鮮人会館接収陰謀に抗しその不当性を衝く公開質問状 一九五〇年(昭和二十五)	十一月二十二日	214
<b>第二編 成長への胎動</b>			
<b>第一章 地方制度改革と県土の基盤整備</b>			
<b>第一節 桑原県政の確立</b>			
126	一 講和条約成立後の県政 三谷小学校新聞「講和を迎えて」 一九五一年(昭和二十六)	十月十日	217
127	桑原幹根知事就任二年目の定例県議会での予算説明 一九五二年(昭和二十七)		218
128	二 地方制度改革と県 特別市制についての愛知県と名古屋市の見解 一九五二年(昭和二十七)	四月十五日	220
129	三 名古屋特別都市計画 名古屋特別都市計画高速度鉄道の地下式への変更 一九五四年(昭和二十九)	七月一日	223
130	四 自治体警察 自治体警察の廃止 一九五一年(昭和二十六)	六月二十八日	224
131	愛知県警察本部等の組織規則 一九五五年(昭和三十)	七月一日	225

五 県と市町村の關係

132 宝飯郡形原町の財政自主再建計画書

一九五七年(昭和三十二).....

226

第二節 市町村合併の進展

一 合併に関する取決め

133 愛知県町村合併促進審議会条例

一九五三年(昭和二十八)十月三日.....

229

134 愛知県町村合併促進要領の留意点

一九五三年(昭和二十八)十二月二十六日.....

230

135 愛知県新町村建設計画審査要領

一九五四年(昭和二十九)二月二日.....

232

136 県内各市の隣接町村合併計画

一九五四年(昭和二十九)四月三十日.....

233

137 新市町村建設促進措置要領(案)

一九五六年(昭和三十)十一月二十六日.....

235

138 未合併町村への合併の推進の勧告

一九五七年(昭和三十)五月.....

237

二 尾張地方

139 犬山町ほか四か村合併促進協議会規約の制定

一九五四年(昭和二十九)二月十五日.....

238

140 江南市制の施行への意見

一九五四年(昭和二十九)三月四日.....

240

141 名古屋市と関係町村の合併問題についての県の方針

一九五五年(昭和三十)七月.....

240

142 名古屋市周辺町村合併問題についての申合せ事項

一九五五年(昭和三十)八月四日.....

243

143 稲沢市制の申請

一九五八年(昭和三十)九月十日.....

244

三 三河地方

144 蒲郡町ほか三か町村合併促進協議会の設置

一九五四年(昭和二十九)一月六日.....

244

145 田原町ほか二か村合併促進協議会の設置

一九五四年(昭和二十九)十月一日.....

246

146 豊橋市と周辺町村による廃置分合申請書

一九五四年(昭和二十九)十二月一日.....

248

147 合併新設の足助町への要望事項

一九五四年(昭和二十九)一五年.....

250

148 岐阜県三濃村と愛知県旭村の廢置分合等の促進

一九五五年(昭和三十)二月十八日.....

252

149 御油町の豊川市への編入の申請

一九五八年(昭和三十)三月二十七日.....

252

150 挙母市から豊田市への名称変更の許可申請書

一九五八年(昭和三十)七月十一日.....

253

151 新城町の市制移行への都市的要件とその調査依頼

一九五八年(昭和三十)七月十七日.....

256

第三節 用水建設と県総合開発計画

一 愛知用水の建設

152 愛知用水開発期成同盟会規約

一九四九年(昭和二十四)九月十五日.....

258

153 愛知用水土地改良区設立委員会規約

一九五一年(昭和二十六)十二月七日.....

259

154 『愛知用水新聞』創刊の辞

一九五二年(昭和二十)二月一日.....

260

155 愛知用水受益後の計画調査書

一九五三年(昭和二十八).....

263

156 愛知用水実施に向けての陳情

一九五三年(昭和二十八)六月五日.....

264

157 国際復興開発銀行との交渉

一九五五年(昭和三十)八月.....

266

158	愛知用水事業実施計画についての意見書 一九五七年(昭和三十一年)七月十五日……………	268
	二 豊川用水の建設	
159	渥美・八名・宝飯三郡大規模開墾並農業水利計画書 一九四六年(昭和二十一年)九月十日……………	270
160	東三地方開発期成同盟会規約 一九四七年(昭和二十二年)一月十四日……………	271
161	豊川沿岸開発事業についての陳情書 一九四七年(昭和二十二年)十月六日……………	272
162	宇連溜池敷地用地買収の経過 一九五五年(昭和三十一年)十月……………	274
	三 県総合開発計画の策定	
163	愛知県総合開発審議会条例 一九五〇年(昭和二十五年)九月九日……………	275
164	愛知県総合開発計画の概要 一九五四年(昭和二十九年)十一月……………	278
165	天竜東三河特定地域総合開発計画書 一九五四年(昭和二十九年)六月十一日……………	279
166	木曾特定地域総合開発計画書 一九五六年(昭和三十一年)三月二十三日……………	282
	第四節 政党県組織の再編と選挙	
	一 桑原県政の定着	
167	知事選挙繰上げに対する賛否 一九五五年(昭和三十一年)一月八日……………	285
168	一九五九年二月一日投票の知事選挙の情勢分析 一九五九年(昭和三十四年)一月五日……………	285
169	知事選挙にたいする党のたいど(日本共産党) 一九五九年(昭和三十四年)一月六日……………	287
	二 政党県組織の葛藤と分裂	
170	自由民主党愛知県支部連合会の設立―加藤録五郎日記― 一九五五年(昭和三十一年)十一月―五六年三月……………	288
171	地方オルグ研究会報告書(日本社会党) 一九五七年(昭和三十一年)三月十日……………	290
172	日本社会党愛知県本部の現状と自己批判 一九五八年(昭和三十三年)四月十五日……………	291
173	民主社会党の登場 一九六〇年(昭和三十五年)……………	294
	第五節 県財政の展開	
	一 第二次シャープ勧告と歳入	
174	県税新税目および地方交付税の新設……………	296
	(1) 昭和二十八年愛知県歳入歳出決算書 一九五三年(昭和二十八年)……………	296
	(2) 昭和二十九年愛知県歳入歳出決算書 一九五四年(昭和二十九年)……………	297
175	県税および公営企業の土地売却代の増加……………	298
	(1) 昭和三十年愛知県歳入歳出決算書 一九五五年(昭和三十一年)……………	298
	(2) 昭和三十五年愛知県歳入歳出決算書 一九六〇年(昭和三十五年)……………	299
176	昭和二十八―二十九年度特別会計予算決算 一九五五年(昭和三十一年)三月一日……………	300
	二 災害復旧費の膨張と高度成長への助走	
177	伊勢湾台風による災害対策費の激増……………	302
	(1) 昭和三十三年愛知県歳入歳出決算書 一九五八年(昭和三十三年)……………	302
	(2) 昭和三十四年度愛知県歳入歳出決算書 一九五九年(昭和三十四年)……………	303

178	東海製鐵株式会社製鉄所建設に関する協定書 一九五九年(昭和三十四)七月十六日……………	304
<b>第二章 高度成長への助走</b>		
<b>第一節 農業改良普及事業</b>		
179	農業改良普及事業計画書 一九五三年(昭和二十八)五月……………	307
<b>第二節 繊維産業と陶磁器産業の状況</b>		
一 繊維産業		
180	労働協約と一時離職問題 一九五二年(昭和二十七)六月十日……………	319
181	操業短縮による一時帰省者・離職者の拡大 一九五八年(昭和三十三年)四月二十八日……………	321
二 陶磁器産業		
182	陶磁器加工完成業復興の経過 一九五三年(昭和二十八)六月……………	324
183	陶磁器生産・出荷にかかわる費用の推移 一九五三年(昭和二十八)六月……………	324
184	実態調査にみる輸出陶磁器産業の収益状況 一九五三年(昭和二十八)六月……………	325
<b>第三節 機械工業の再出発</b>		
185	新三菱重工株式会社の出発 一九五二年(昭和二十七)六月一日……………	327
186	ジープの国産化の過程……………	328
(1) 国産ジープ試作車の完成 一九五五年(昭和三十)五月十六日……………		
(2) 国産ジープの優秀性の実証 一九五五年(昭和三十)八月十六日……………		
187	愛知臨海工業地帯造成計画の概要 一九五六年(昭和三十一年)四月……………	330

188	高度成長前期における愛知鋼鉄株式会社の経営方針 一九五六年(昭和三十一年)六月十五日……………	335
189	重電メーカーの家電分野への進出(三菱電機株式会社) 一九五七年(昭和三十二年)七月二十日……………	338
190	国民大衆車の生産開始(トヨタ自動車販売株式会社) 一九五九年(昭和三十四)九月一日……………	342
<b>第四節 公益事業の新段階</b>		
一 エネルギー産業		
191	電力販売量の推移 一九五二年(昭和二十七)一七二年……………	343
192	渇水による電力不足への対応 一九五二年(昭和二十七)二月五日……………	343
193	天竜川佐久間発電所の開発 一九五三年(昭和二十八)十月……………	344
194	新名古屋火力発電所の建設 一九五五年(昭和三十)十二月一日……………	345
195	自治体の援助によるガス業の顧客開拓 一九五七年(昭和三十二年)六月二十六日……………	346
二 鉄道事業		
196	名鉄電車のダイヤ改正とスピードアップ 一九五三年(昭和二十八)六月二十日……………	347
197	名鉄の新造電車 一九五四年(昭和二十九)五月二十一日……………	349
198	名鉄新名古屋駅の竣工 一九五四年(昭和二十九)十二月二十五日……………	350
<b>第五節 産業金融の展開</b>		
199	なべ底不況下の産業金融 一九五八年(昭和三十三年)二月十二日……………	351

## 第六節 名古屋港と臨海工業地帯の発展

200	名古屋港管理組合の成立 一九五一年(昭和二十六)七月二日……………	361	
201	五大港外国貿易額年次推移比較表 二〇〇八年(平成二十)三月……………	364	
202	名古屋港取扱品目構成の推移 二〇〇八年(平成二十)三月……………	366	
(1)	輸出主要品種別表……………	366	
(2)	輸入主要品種別表……………	368	
203	工業用地造成に伴う漁業補償……………	370	
(1)	本県の実業補償……………	370	
(2)	漁業補償調査……………	371	
204	高度成長期の南部臨海工業地帯の埋立土地利用状況 一九六五年(昭和四十)……………	372	
<b>第三章 県民生活の構造転換</b>			
<b>第一節 広域的な情報基盤の整備</b>			
205	名古屋テレビ塔の概要 一九五三年(昭和二十八)……………	373	
206	CBCテレビプログラム(開局記念番組) 一九五六年(昭和三十)十二月一日……………	377	
<b>第二節 生活の改善</b>			
一 生活習慣の改善			
207	一色婦人会の生活改善 一九五四年(昭和二十九)三月……………	380	
二 世帯更生運動の推進と保育・福祉施設の整備			
208	第四回愛知県社会福祉事業大会決議文案 一九五五年(昭和三十)三月二十三日……………	390	
209	世帯更生運動の裏付けとしての貸付事業の開始 一九五五年(昭和三十)八月一日……………	391	
210	一九五〇年代半ばにおける県内保育所の概況 一九五九年(昭和三四)一月二十日……………	392	
211	一九五〇年代半ばにおける県内養老施設の実態 一九五九年(昭和三四)一月二十日……………	393	
212	世帯更生運動進展と民生委員協議会 一九五九年(昭和三四)二月五日……………	394	
三 社会環境浄化による非行防止			
213	社会環境浄化と児童の非行防止 一九五九年(昭和三四)八月五日……………	396	
214	青少年保護育成条例制定に向けての陳情 一九六〇年(昭和三五)二月十日……………	397	
<b>第三節 教育と文化の新展開</b>			
一 産業教育の再編			
215	中学校における産業教育実施に向けての協議 一九五七年(昭和三十二)十月—十一月……………	398	
二 文芸活動の進展			
216	『近代批評』創刊号 一九五四年(昭和二十九)十二月一日……………	402	
(1) 目次……………			402
(2) 編集後記……………			402
217	直木賞受賞 城山三郎 一九五九年(昭和三四)一月二十一日……………	403	
218	『東海文学』第一号 一九五九年(昭和三四)九月二十五日……………	404	
(1) 目次……………			404



	(2) 編集後記……………	404
	三 文化活動の進展	
219	名古屋祭事業報告書 一九五五年(昭和三十)十二月……………	405
220	名古屋市内の催物 一九五六年(昭和三十)八月……………	407
221	名古屋市内における家庭映画会の沿革と現状 一九五八年(昭和三十)五月……………	407
222	愛知図書館の竣工 一九五九年(昭和三十)四月……………	411
	四 スポーツの振興と普及	
223	『体育愛知』の創刊 一九五三年(昭和二十八)三月三十日……………	412
224	高校ハンドボールの活躍……………	414
	(1) 県勢アベック優勝 一九五三年(昭和二十八)八月二十四日……………	414
	(2) 稲沢高校 女子ハンドボール部の沿革 一九八四年(昭和五十九)……………	414
225	中日ドラゴンズ 日本一 一九五四年(昭和二十九)十一月七日……………	415
226	豊橋東高校 女子バレーボール部の沿革 一九五七年(昭和三十)七月……………	416
	第四節 社会運動の定着	
	一 平和運動の発展	
227	御礼状(伊良湖岬試砲場設置反対期成同盟解散) 一九五二年(昭和二十七)十二月二十六日……………	418
228	米軍による名古屋港弾薬荷揚場設置に反対する運動 一九五三年(昭和二十八)六月二十日……………	419
229	小牧基地の拡張とその原爆基地化に反対する運動 一九五五年(昭和三十)六月十五日……………	420
230	県内における原爆反対運動の歩み 一九五五年(昭和三十)八月……………	422
231	小牧・守山両基地への自衛隊移駐をめぐる動き 一九五八年(昭和三十)三月十一日……………	423
	二 大衆運動の多様化	
232	愛知母親連絡会の内規 一九五六年(昭和三十)八月二十日……………	424
233	大須事件被告団の主張と判決……………	425
	(1) 被告団の主張 一九五七年(昭和三十)五月……………	425
	(2) 第一審判決で騒擾罪を適用 一九六九年(昭和四十四)十一月十一日……………	425
234	警職法改悪反対集会 一九五八年(昭和三十)十一月十八日……………	426
235	愛知県社会保障推進協議会結成趣意書 一九五九年(昭和三十四)七月……………	427
	三 教育統制と抵抗	
236	愛知大学事件に対する全学教授会の抗議 一九五二年(昭和二十七)五月二十一日……………	427
237	教育五団体による大学区制反対陳情書 一九五六年(昭和三十)三月……………	428
238	勤務評定反対運動 一九五八年(昭和三十)二月九日……………	429
	四 在日韓国・朝鮮人との交流活動	
239	米日韓会談に関する共同声明書 一九五三年(昭和二十八)二月十五日……………	430
240	日朝協会愛知県連合会の結成 一九五四年(昭和二十九)十月十日……………	431
241	在日朝鮮人の帰国支援 一九五八年(昭和三十)十月十五日……………	432

242 在日朝鮮人帰国者歓送大会に参加しましょう！  
一九五九年（昭和三十四）十二月……………433

## 第四章 伊勢湾台風災害と社会整備

### 第一節 伊勢湾台風などの被害

243 台風十三号の被害状況  
一九五三年（昭和二十八）十月十二日……………435

244 伊勢湾台風の場合  
一九五九年（昭和三十四）十一月三十日……………436

245 農林・農地関係の被害状況  
一九五九年（昭和三十四）十月……………438

246 工業関係の被害状況  
一九六一年（昭和三十六）三月三十一日……………441

### 第二節 災害の教訓と防災組織の新構築

#### 一 被害の特徴

247 伊勢湾台風による被害の特色  
一九六〇年（昭和三十五）一月十五日……………446

248 高潮による被害の分析  
一九六〇年（昭和三十五）三月二十三日……………447

249 半田市の被災原因  
一九六一年（昭和三十六）七月三十一日……………448

#### 二 被災者と救助・救援活動

250 県による被災者支援の概要  
一九五九年（昭和三十四）十月二日……………449

251 名古屋地区学生による救援活動の状況  
一九六〇年（昭和三十五）四月二十日……………450

252 災害直後における被災者の状況  
一九六〇年（昭和三十五）九月二十六日……………452

253 被災の体験―被災者の手記から―  
一九八六年（昭和六十二）九月二十六日……………453

### 三 被害拡大の要因

254 伊勢湾台風前に発せられた名古屋市議による警告  
一九五三年（昭和二十八）十月九日……………454

255 防災なき都市計画が招いた被害  
一九六〇年（昭和三十五）六月十日……………455

256 不十分な水防組織および水防体制  
一九六〇年（昭和三十五）七月……………457

#### 四 復旧・復興の取組

257 知事の国への要望  
一九五九年（昭和三十四）十月二十九日……………458

258 工業地帯における防災対策  
一九六〇年（昭和三十五）三月十一日……………459

259 県による復興の基本構想  
一九六〇年（昭和三十五）八月十五日……………460

260 市民防災協力組織の創設  
一九六一年（昭和三十六）三月三十一日……………462

261 「災害国会」における復興までの立法措置  
一九六四年（昭和三十九）十月……………464

262 五 国の総合的災害対策のモデルとされた本県の対応  
防災基本法に対する考え方  
一九六〇年（昭和三十五）十二月二十一日……………465

## 第三編 高度成長

### 第一章 県による地方計画の策定

#### 第一節 桑原県政の展開

##### 一 県行政と桑原知事

263 昭和三十六年二月定例県議会での知事予算説明  
一九六一年（昭和三十六）……………471

264	愛知県公害防止条例 一九六四年(昭和三十九) 四月一日……………	472
265	昭和四十二年二月定例県議会での知事予算説明 一九六七年(昭和四十二)……………	475
266	中部圏知事会の設置 一九六七年(昭和四十二) 五月三十一日……………	476
267	愛知県第二期住宅建設五箇年計画 一九七一年(昭和四十六)……………	477
	二 高度成長期の名古屋市	
268	昭和三十六年度国家予算への五大市からの要望 一九六一年(昭和三十六) 一月十三日……………	479
269	名古屋高速道路公社の設立 一九七三年(昭和四十八) 三月……………	482
	<b>第二節 地方計画の策定と展開</b>	
270	地方計画協議会に対する県と名古屋市の考え 一九五六年(昭和三十)……………	485
271	愛知県地方計画協議会設置要綱 一九五六年(昭和三十) 十二月五日……………	486
272	愛知県地方計画書 まえがき 一九五八年(昭和三十) 十二月十六日……………	489
273	愛知県新地方計画 新地方計画を作成して 一九六二年(昭和三七) 八月……………	491
274	愛知県新地方計画推進のための地区開発基本計画 一九六四年(昭和三十九) 六月……………	492
275	第三次地方計画 飛躍の時を迎えて 一九七〇年(昭和四十五) 一月……………	494
276	企画課と地域開発 一九七九年(昭和五十四) 十一月……………	495

	<b>第三節 市町村合併の展開</b>	
	一 合併に関する取決め	
277	合併の特例に関する法律および同法施行令の施行 一九六五年(昭和四十) 五月四日……………	498
278	地方自治法の一部を改正する法律の施行 一九七〇年(昭和四十五) 三月十二日……………	500
	二 三県合併	
279	東海三県統合の構想 一九六二年(昭和三七) 四月二十七日……………	501
	三 尾張地方	
280	名古屋市の周辺市町合併計画推進事務取扱要綱(案) 一九六二年(昭和三七) 三月―四月……………	502
281	守山市の名古屋市への編入についての協議の申請 一九六二年(昭和三七) 十一月十二日……………	503
282	北里村を小牧市と師勝町に編入する同村よりの申請 一九六三年(昭和三八) 六月五日……………	505
283	北里村の一部を師勝町に編入する同町よりの申請 一九六三年(昭和三八) 六月五日―六日……………	505
284	上野・横須賀両町合併協議会の設置 一九六八年(昭和四三) 三月十五日……………	506
285	上野・横須賀町合併に伴う協定事項 一九六八年(昭和四三) 十一月一日……………	507
286	知多市制施行の申請 一九七〇年(昭和四十五) 六月五日……………	509
287	旭町から尾張旭市への名称変更についての事前協議書 一九七〇年(昭和四十五) 八月四日……………	510
288	豊明市制施行についての意見書 一九七二年(昭和四十七)……………	511

四 三河地方

289 岡崎市と六ツ美町の廢置分合についての協定書  
一九六二年(昭和三十一年)八月十三日……………512

290 刈谷市知立町合併協議会規約の制定  
一九六六年(昭和四十一年)一月十七日……………514

291 安城市と桜井町の合併協議会の設置届出書  
一九六六年(昭和四十一年)十一月二十五日……………516

第四節 保守対立下の選挙と政党

一 公明選挙運動の展開

292 選挙を明るく 公明選挙の状況  
一九六三年(昭和三十八年)十一月十五日……………518

二 桑原県政の安定化

293 一九六七年知事選挙の概要  
一九六七年(昭和四十二年)九月一日……………520

294 公明党愛知県本部の中小企業対策  
一九六九年(昭和四十四年)一月一日……………520

三 革新系統一知事候補の模索

295 新村猛 知事選挙について語る  
一九九五年(平成七年)十一月十五日……………521

296 政策協定(案)  
一九七〇年(昭和四十五年)……………523

297 選挙公報 桑原幹根  
一九七一年(昭和四十六年)二月七日……………525

第五節 高度成長期の県財政

一 財政規模拡大と潤沢な県税収入

298 高度成長を支えた潤沢な県税収入……………527

(1) 昭和三十六年度―四十年年度普通会計年度別歳入決算内訳  
一九六六年(昭和四十一年)十二月一日……………527

(2) 昭和四十一年度―四十四年度普通会計年度別歳入決算内訳  
一九七〇年(昭和四十五年)十二月一日……………528

(3) 昭和四十五年―四十八年度普通会計年度別歳入決算内訳  
一九七五年(昭和五十年)十二月一日……………529

299 歳出の七割前後を占めた人件費と普通建設事業費……………530

(1) 昭和三十六年度―四十年年度普通会計年度別歳出決算内訳  
一九六六年(昭和四十一年)十二月一日……………530

(2) 昭和四十一年度―四十四年度普通会計年度別歳出決算内訳  
一九七〇年(昭和四十五年)十二月一日……………531

(3) 昭和四十五年―四十八年度普通会計年度別歳出決算内訳  
一九七五年(昭和五十年)十二月一日……………532

300 五割を超えた法人関係税……………533

(1) 昭和三十六年度―四十年年度県税収入の年度別税目別決算内訳  
一九六六年(昭和四十一年)十二月一日……………533

(2) 昭和四十一年度―四十四年度県税収入の年度別税目別決算内訳  
一九七〇年(昭和四十五年)十二月一日……………534

(3) 昭和四十五年―四十八年度県税収入の年度別税目別決算内訳  
一九七五年(昭和五十年)十二月一日……………535

二 特別会計等での成長路線の継続

301 歳入歳出ともに一〇倍増となった特別会計……………536

(1) 昭和三十五年度特別会計歳入歳出決算  
一九六〇年(昭和三十五年)……………536

(2) 昭和四十八年度県特別会計歳入歳出決算  
一九七三年(昭和四十八年)……………536

第二章 各種産業の発展

第一節 製鉄業の発展

302 一貫製鉄所の建設と発展……………537

(1) 東海製鉄株式会社の工業用水計画  
一九五八年(昭和三十三年)十二月……………537

(2)	岡谷鋼機株式会社薄板サービセンターの設立	543
(3)	東海製鐵株式会社の長期計画	545
	一九六一年(昭和三十六) 二月一日	
303	特殊鋼業の発展	547
(1)	特殊鋼業界の競争激化(大同特殊鋼株式会社)	547
	一九六〇年(昭和三十五) 三月十日	
(2)	特殊鋼業界の発展(愛知製鋼株式会社)	548
	一九六二年(昭和三七) 二月一日	
第二節	機械工業の発展	
304	重機械工業の展開(三菱重工株式会社)	555
(1)	国産YS-11中型輸送機の誕生	555
	一九六二年(昭和三七) 九月十六日	
(2)	名古屋各製作所の製品1	556
	一九六六年(昭和四十二) 二月一日	
(3)	名古屋各製作所の製品2	558
	一九六七年(昭和四十二) 二月一日	
305	自動車工業の展開(トヨタ自動車株式会社)	562
(1)	デミング賞実施受賞	562
	一九六五年(昭和四十) 十月十六日	
(2)	国内初のエンジン専門工場の完成	565
	一九六五年(昭和四十) 十月三十日	
306	鉄道車両工業の展開(日本車輛製造株式会社)	566
(1)	名古屋地下鉄車両の製造	566
	一九六九年(昭和四十四) 三月十五日	
(2)	山陽新幹線車両の試験運転	567
	一九六九年(昭和四十四) 四月十日	
(3)	豊川製作所新幹線車両初の送り出し	568
	一九七二年(昭和四十七) 二月十五日	

307	ヤマザキマザック株式会社のNC化技術開発への先行投資	569
	一九八九年(平成元) 六月一日	
308	東海協豊会の公害対策	571
	一九九四年(平成六) 三月	
第三節	繊維産業と陶磁器産業の発展	
一	繊維産業	
309	民成紡績株式会社の合理化提案	572
	一九六四年(昭和三十九) 四月十五日	
310	豊田紡織株式会社の事業再建	575
(1)	第一回幹部会議事録 昭和四十四年度会社目標	575
	一九六八年(昭和四十三) 十二月十日	
(2)	第二回幹部会議事録	577
	一九六八年(昭和四十三) 十二月二十八日	
(3)	第三回幹部会議事録	579
	一九六九年(昭和四十四) 一月二十七日	
(4)	工場長部長会(一九六九年四月)	580
	一九六九年(昭和四十四) 四月二日	
(5)	工場長部長会(一九六九年五月)	581
	一九六九年(昭和四十四) 五月一日	
(6)	工場長部長会(一九六九年六月)	582
	一九六九年(昭和四十四) 六月四日	
(7)	工場長部長会(一九六九年十月)	583
	一九六九年(昭和四十四) 十月二日	
(8)	工場長部長会(一九六九年十一月)	584
	一九六九年(昭和四十四) 十一月七日	
(9)	工場長部長会(一九七〇年二月)	585
	一九七〇年(昭和四十五) 二月六日	
二	陶磁器産業	
311	中小企業における電磁器産業の状況	587
	一九六一年(昭和三十六) 二月	

312 愛知県陶磁器工業組合調整規程  
一九六九年(昭和四十四) 八月……………587

#### 第四節 流通業の再編

313 名鉄百貨店のあらまし  
一九五四年(昭和二十九) 十一月二十五日……………589

314 スーパーの発展……………591

(1) 新規事業スーパーの開店(名鉄関連グループ)  
一九六四年(昭和三十九) 一月十五日……………591

(2) 対面販売からセルフ・サービスへの移行(株式会社ヤマナカ)  
一九七八年(昭和五十三) 六月二十日……………593

315 高度成長期における繊維流通会社の経営状況……………595

(1) 瀧兵株式会社第五期営業報告書  
一九六七年(昭和四十二)……………595

(2) 株式会社中部流通センター営業報告書  
一九六九年(昭和四十四)……………597

316 流通近代化の動き……………598

(1) 商業近代化都市の指定  
一九七三年(昭和四十八) 七月一日……………598

(2) 一宮商業近代化推進協議会の設立  
一九七四年(昭和四十九) 十一月一日……………599

第五節 公益事業の拡大

317 高度成長による電力不足と新電源の開発  
一九六九年(昭和四十四) 九月十五日……………600

318 新電源の具体化としての原発  
一九七〇年(昭和四十五) 五月一日……………601

二 ガス事業

319 ガス販売量の推移……………602

(1) 一九六三年一月一日―六月三十日……………602  
一九六三年(昭和三十八) 八月……………602

(2) 一九六三年七月一日―十二月三十一日……………602

(3) 一九六四年(昭和三十九) 二月……………602

(4) 一九六八年二月一日―七月三十一日……………602

(5) 一九六八年(昭和四十三) 九月……………602

(6) 一九七三年二月一日―七月三十一日……………603

(7) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(8) 一九七四年(昭和四十九) 三月……………603

(9) 一九七三年八月一日―一九七四年一月三十一日……………603

(10) 一九七四年(昭和四十九) 三月……………603

(11) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(12) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(13) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(14) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(15) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(16) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(17) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(18) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(19) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(20) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(21) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(22) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(23) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(24) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(25) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(26) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(27) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(28) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(29) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(30) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(31) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(32) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(33) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(34) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(35) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(36) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(37) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(38) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(39) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(40) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(41) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(42) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(43) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(44) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(45) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(46) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(47) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(48) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(49) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(50) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(51) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(52) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(53) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(54) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(55) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(56) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(57) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(58) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(59) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(60) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(61) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(62) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(63) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(64) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(65) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(66) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(67) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(68) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(69) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(70) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(71) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(72) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(73) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(74) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(75) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(76) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

(77) 一九七三年(昭和四十八) 九月……………603

### 第三章 都市化の進行

#### 第一節 都市圏の形成

329	名古屋大都市圏計画	633
	一九六四年(昭和三十九)五月十五日……………	
330	モーターゼーションの進展……………	637
(1)	名古屋市及びその周辺における都市交通に関する答申	637
	一九六一年(昭和三十六)十月二十一日……………	
(2)	自動車事故の防止に向けた取組	642
	一九六二年(昭和三十七)四月……………	
(3)	公道における露店営業の廃止についての要望書	645
	一九七一年(昭和四十六)九月……………	
331	住宅不足への対応……………	648
(1)	本県における住宅不足の現状	648
	一九六四年(昭和三十九)三月……………	
(2)	中部の都市住宅開発と高蔵寺ニュータウン計画	651
	一九六六年(昭和四十一)五月……………	

#### 第二節 都市的生活と福祉の展開

一 都市的生活の浸透と女性の活躍

332	農家生活の実態に関する統計調査報告	654
	一九六五年(昭和四十)二月……………	
333	家計の主な担い手	656
	一九六八年(昭和四十三)一月二十四日……………	
334	愛知県地域婦人団体連絡協議会の活動	658
	一九七一年(昭和四十六)四月二十九日……………	
335	県民所得の上昇と生活水準の向上	658
	一九七三年(昭和四十八)十月十八日……………	

(1) 農業人口……………658

(2) ガス・水道業……………659

(3) 所得・消費支出……………660

#### 二 働く母親らによる保育所の開設と運営

336	池内共同保育所の記録	662
	一九六三年(昭和三十八)六月二十五日……………	
337	池内共同保育所の運営とときまり	667
	一九六五年(昭和四十)六月二十日……………	
338	働く父母による保育所づくりと子ども像	668
	一九六五年(昭和四十)六月……………	
339	三 障害者福祉の進展と老人福祉への着目	670
	県保健福祉連絡協議会の発足	670
	一九六一年(昭和三十六)六月五日……………	
340	県社会福祉審議会によるコロナ設置の答申	671
	一九六五年(昭和四十)十二月十五日……………	
341	福祉に欠ける老人の実態	672
	一九六八年(昭和四十三)九月十日……………	
342	ひとり暮らし老人の県内調査結果	673
	一九七三年(昭和四十八)三月……………	

#### 第三節 教育と文化の大衆化

一 教育大衆化への対応

343	高校生急増対策による地元負担軽減についての陳情	677
	一九六二年(昭和三十七)十月十五日……………	
344	学校群・総合選抜制度の導入案	678
	一九七一年(昭和四十六)十二月二十七日……………	

二 文芸活動の継承

345	『あんかるわ』第一号	681
	一九六二年(昭和三十七)八月……………	
346	『名古屋近代文学史研究』第一号	682
	一九七一年(昭和四十六)一月十日……………	
347	直木賞受賞 豊田穰	684
	一九七一年(昭和四十六)一月十九日……………	

三 スポーツの発展と活性化

348 県体育館の開館  
一九六四年(昭和三十九) 十月三日…………… 685

349 中京商業高校の高校野球春夏連続優勝  
一九六六年(昭和四十一年) 八月二十五日…………… 686

350 世界卓球選手権大会での活躍  
一九六七年(昭和四十二年) 四月二十二日…………… 687

351 メキシコオリンピック男子体操金メダル  
一九六八年(昭和四十三年) 十月二十八日…………… 688

352 ビンボン外交のはじまり  
一九七一年(昭和四十六) 四月八日…………… 689

353 横綱玉の海の活躍と悲報  
一九七一年(昭和四十六) 十月十一日…………… 691

四 文化活動の活性化

354 犬山自然公園モノレール敷設免許事由書  
一九六〇年(昭和三十五) 十二月一日…………… 692

355 映画産業の動向  
一九六一年(昭和三十六) …………… 694

356 名古屋市科学館の運営についての覚書  
一九六一年(昭和三十六) 十月十八日…………… 695

357 農業協同組合による有線放送事業  
一九六四年(昭和三十九) 九月一日…………… 696

第四節 社会運動の高揚と進展

一 安保条約改定反対闘争

358 安保条約改定阻止県民会議の結成  
一九五九年(昭和三十四) 四月十日…………… 698

359 県統一行動日の活動計画  
一九五九年(昭和三十四) 五月二十六日…………… 699

360 伊勢湾台風復興闘争と安保改定阻止闘争の統一  
一九五九年(昭和三十四) 十一月十一日…………… 700

361 第十六次統一行動に向けての活動  
一九六〇年(昭和三十五) 四月二十六日…………… 701

362 新安保条約批准強行採決に抗議する県学連大会  
一九六〇年(昭和三十五) 五月二十三日…………… 702

363 六・四統一行動の県内における状況  
一九六〇年(昭和三十五) 六月八日…………… 703

364 新安保条約成立阻止のための商工業者の活動  
一九六〇年(昭和三十五) 六月二十七日…………… 705

二 安保闘争後の平和運動

365 安保破棄・平和と民主主義を守る愛知県民会議(仮称)  
一九六一年(昭和三十六) 二月二十八日…………… 706

366 安保廃棄軍事基地撤去東海地方大集会の開催  
一九六九年(昭和四十四) 三月二十五日…………… 707

367 米国のベトナム侵略を糾弾する県民大集会の開催  
一九七二年(昭和四十七) 十月二十五日…………… 708

三 生命と生活を守る運動

368 小児まひワクチン輸入運動の成果  
一九六一年(昭和三十六) 七月十八日…………… 709

369 部落解放要求請願行進  
一九六一年(昭和三十六) 十月二十五日…………… 710

370 一宮市民の水禍防止柵設置運動  
一九七一年(昭和四十六) …………… 710

371 愛知県消費者団体連絡会の結成  
一九七二年(昭和四十七) 五月二十一日…………… 711

372 乳幼児医療の無料化運動  
一九七二年(昭和四十七) 八月十日…………… 712

四 憲法・思想・教育運動

373 高校増設県民総決起大会の開催  
一九六二年(昭和三十七) 九月二十五日…………… 712

374 建国記念日(紀元節復活)制定をみとめることはできない  
一九六七年(昭和四十二) 二月十日…………… 713



375	「憲法問題」講演会の統一開催 一九六八年(昭和四十三) 六月二日……………	713
376	教科書(家永)裁判を支援する運動に参加しよう! 一九六九年(昭和四十四) 三月……………	714
377	旭丘高校生の「政治活動制限・文部省見解」反対デモ 一九七〇年(昭和四十五) 一月……………	715
	五 在日韓国・朝鮮人との連帯運動	
378	「愛知・在日朝鮮人の人権を守る会」の設立 一九六四年(昭和三十九) 五月二十五日……………	716
379	在日朝鮮人の民族教育への圧迫に対する反対声明とよびかけ 一九六五年(昭和四十) 十月九日……………	717
380	国民健康保険の適用を求める請願 一九七一年(昭和四十六) 十二月七日……………	718
381	日立就職差別違法判決 一九七四年(昭和四十九) 六月十九日……………	718
	<b>第四編 成長から成熟へ</b>	
	<b>第一章 オイルショックと県政の転換</b>	
	<b>第一節 新しい県政の模索</b>	
	一 名古屋高速道路の計画変更 公社運営会議での論議 一九七五年(昭和五十) 九月五日……………	721
	二 県政の展開	
382	愛知県県民生活安定緊急対策条例 一九七四年(昭和四十九) 三月二十九日……………	723
384	愛知県緑化センター条例 一九七六年(昭和五十二) 三月二十九日……………	726
385	愛知県地震災害警戒本部条例 一九七九年(昭和五十四) 十月二十四日……………	727

	三 オリன்பピック招致申請と中部国際空港の推進	
386	オリன்பピック競技大会の名古屋への招致 一九八一年(昭和五十六) 三月……………	728
387	中部国際空港建設促進期成同盟会の設置 一九八六年(昭和六十一) 五月……………	729
	<b>第二節 安定成長期における地方計画</b>	
388	県民の生きがいに関する調査の概要 一九七四年(昭和四十九) 十二月……………	731
389	新しい計画づくりに関し県民のみなさんの提案を 一九七五年(昭和五十) 三月……………	733
390	新しい計画づくりへの市町村長の意見・提案 一九七五年(昭和五十) 七月……………	734
391	新しい計画づくりへの県民の意見・提案 一九七五年(昭和五十) 七月……………	736
392	第四次地方計画の概要 一九七六年(昭和五十二) 八月……………	738
393	第五次地方計画に対する二十一世紀研究会での論議 一九八〇年(昭和五十五) 六月七日……………	740
394	第五次愛知県地方計画の基本理念 一九八二年(昭和五十七) 七月……………	741
	<b>第三節 桑原知事から仲谷・鈴木知事へ</b>	
	一 仲谷県政への継承	
395	県における社公民体制の模索と破綻 一九七四年(昭和四十九) 十一月十六日……………	743
	二 革新共闘の崩壊	
396	日本社会党愛知県政綱領 一九七八年(昭和五十三) 十月……………	743
397	県知事選挙における社共共闘の崩壊 一九七九年(昭和五十四) 一月九日……………	745

三 鈴木県政の誕生

398 自由民主党「開かれた県連」の実践  
一九八二年(昭和五十七) 七月十五日…………… 745

399 鈴木礼治副知事の知事選挙出馬表明  
一九八二年(昭和五十七) 九月二十四日…………… 748

第四節 安定成長期の県財政

400 オイルショック後の厳しい県財政  
一九七五年(昭和五十) 三月四日…………… 750

401 昭和五十年法人県民税の超過課税の実施  
一九七五年(昭和五十) 六月二十五日…………… 752

402 昭和五十五年度予算編成のゼロベース方式採用…………… 753

(1) 定例愛知県議会会議録(二月二十二日)  
一九八〇年(昭和五十五) 二月二十二日…………… 753

(2) 定例愛知県議会会議録(二月二十六日)  
一九八〇年(昭和五十五) 二月二十六日…………… 753

403 不安定な法人関係税収入と義務的経費の増加  
一九八六年(昭和六十) 三月…………… 754

404 三大都府県の行政投資額の推移  
一九八九年(平成元) 八月一日…………… 758

405 昭和六十三年度末の積立金・県債・貸付金の状況  
一九九〇年(平成二) 一月…………… 759

第二章 オイルショックから安定成長へ

第一節 オイルショックと「省エネルギー」

一 「省エネルギー」対策

406 電力企業の「石油危機」への対応  
一九七三年(昭和四十八) 十二月十五日…………… 761

407 省エネパイロットファミリーグループ設置事業  
一九八〇年(昭和五十五) 五月十四日…………… 765

408 県からの省エネルギー推進の要請  
一九八〇年(昭和五十五) 十月…………… 767

409 県による地域エネルギー開発利用調査  
一九八一年(昭和五十六) …………… 768

二 各種産業分野の対策

410 製鉄業の省エネルギー対策(新日鐵住金株式会社)…………… 771

(1) 名古屋製鐵所での省エネルギーの努力  
一九七四年(昭和四十九) 一月…………… 771

(2) 名古屋製鐵所での連鑄月間生産量世界新記録達成  
一九七九年(昭和五十四) 九月…………… 773

411 陶磁器産業界によるエネルギー問題にかかわる陳述  
一九七四年(昭和四十九) 四月十一日…………… 775

412 コークス乾式消火装置(ガス業)  
一九八六年(昭和六十一) …………… 776

第二節 工業における安定成長

413 N-IIロケット1号機の完成  
一九八〇年(昭和五十五) 十二月一日…………… 778

414 ニューセラミックス懇談会設置要綱  
一九八一年(昭和五十六) 九月三十日…………… 780

415 スミスGM会長の来社  
一九八四年(昭和五十九) 四月二十日…………… 781

416 大衆車量産工場の軌跡  
一九八四年(昭和五十九) 十一月二十三日…………… 782

417 現地法人による海外生産の展開  
一九八五年(昭和六十) 十二月二十五日…………… 784

418 工作機械業の日米経済摩擦(ヤマザキマザック株式会社)  
二〇〇六年(平成十八) 三月四日…………… 785

第三節 新しい流通業の形態

419 コンビニエンスストアの登場…………… 787

	(1) 「ココストア」の誕生	787
	一九七二年(昭和四十七)	
	(2) 「サークルK」の展開	790
	一九八〇年(昭和五十五)	
420	中型店出店に伴う問題	791
	一九七七年(昭和五十二)	
421	株式会社ヤマナカの深夜営業とEDP導入	793
	一九七八年(昭和五十三)	
422	共同仕入れ会社「株式会社ユニー」の誕生	794
	一九八〇年(昭和五十五)	
423	ユニーグループにおける高度化・多角化・国際化	797
	一九八五年(昭和六十)	
424	株式会社栄電社における販売チャンネルの多様化	800
	一九八六年(昭和六十)	
425	キャッシュレス化に対応する中小企業	805
	一九八八年(昭和六十三)	

### 第三章 新たな県民生活像の模索

#### 第一節 コミュニティ形成への指向

426	県コミュニティ施策導入の検討過程	809
	一九七三年(昭和四十八)	
427	県のコミュニティ施策の方向	811
	一九七四年(昭和四十九)	
428	矢作川の流域システム構築の提唱	814
	一九八一年(昭和五十六)	
第二節 支えあう暮らしの模索		
429	男女平等を考えるためのハンドブック	817
	一九八三年(昭和五十八)	
430	高齢社会に至るまでの対応課題	822
	一九八六年(昭和六十一)	

### 第三節 教育の新たな試みと文化の展開

	一 高校入試改革	827
431	複合選抜制度の導入	827
	一九九〇年(平成二)	
	二 文芸活動の定着	
432	直木賞受賞 連城三紀彦	831
	一九八四年(昭和五十九)	
433	中部ベンチクラブの結成	833
	一九八六年(昭和六十一)	
	三 スポーツ分野における国際舞台での活躍	
434	モントリオールオリンピック金メダル女子バレーボール主将の帰郷	833
	一九七六年(昭和五十二)	
435	フィギュアスケート日本人初の金メダル	834
	一九八九年(平成元)	

#### 第四節 新しい社会運動の展開

	一 戦災記録・補償運動	836
436	名古屋空襲を記録する会の発足(三月十二日)	836
	一九七二年(昭和四十七)	
437	戦災傷害者連絡会の活動	836
	一九七三年(昭和四十八)	
438	岡崎空襲を記録する会の活動	837
	一九七五年(昭和五十)	
439	民間戦災傷者への補償を国へ提訴	837
	一九七六年(昭和五十二)	
	二 人権擁護運動	
440	企業内思想差別に対する提訴	838
	(1) 中電人権訴訟の開始(一九七五年)	
	一九七九年(昭和五十四)	

(2) 原告側主張通り和解成立

441 公務員・教員採用民族差別撤廃運動の成果  
一九八七年(平成九)十一月十二日……………839

442 県議会への指紋登録廃止の請願書  
一九八二年(昭和五十七)六月三十日……………839

443 体罰・暴力の根絶アピール  
一九八三年(昭和五十八)三月二日……………840

444 愛知県公害病患者の会連絡会の結成  
一九八六年(昭和六十二)一月十七日……………840

445 矢作川水域等水質汚濁防止のための指導基準  
一九八〇年(昭和五十五)四月一日……………841

446 中部リサイクル運動市民の会の呼びかけ  
一九八一年(昭和五十六)三月二十九日……………841

447 名古屋新幹線公害訴訟の和解  
一九八六年(昭和六十二)五月十六日……………845

第五節 調和ある県民社会への展望

一 産業首都構想と国際化への志向

448 東海環状都市帯構想  
一九八二年(昭和五十七)十二月二十四日……………846

449 中部東海地方の状況と今後の役割  
一九八三年(昭和五十八)三月……………847

450 世界に開かれた産業の都の提唱  
一九八四年(昭和五十九)二月……………848

451 二十一世紀を見据えた知事の年頭の言葉  
一九八六年(昭和六十一)一月十日……………849

二 生活の豊かさや地域生活の充実という発展目標

452 安定した雇用基盤と地域生活の重視  
一九八〇年(昭和五十五)三月……………850

453 専門家への意識調査にみる地域発展の方向性

一九八一年(昭和五十六)三月……………852